



令和6年6月28日



かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

7月号

感じる心たいせつに みんなの心、みとめあい せいっぱい やってみよう やりとげよう

かみせや子ども会議 ～自分のこととして考える～

校長 小林 京子

『わたしのせいじゃない』

教室で一人の男の子が泣いています。①学校の休み時間にあったことだけど私のせいじゃないわ。②始まったところは見えていないからどうしてそうなったのかぼくは知らない。③本当は私見たの、だから知っているの、でもとにかくわたしのせいじゃない。④ぼくは怖かった、何もできなかった、見ているだけだった。⑤大勢でやっていたのよ、一人では止められなかった、わたしのせいじゃないわ。⑥始めたのは私じゃない…。⑦自分のせいじゃないか。その子変わっているんだ、他の子はみんなふつうなのに…。⑧考えることがちがうんだ、全然おもしろくないんだ…。⑨先生に言いつければいいのに、弱虫なのよ、わたしには関係ないわ。⑩…その子のことほとんど忘れていたわ、何も言わないんだもの…。

引用：レイフ・クリスチャンソン 岩崎書店

朝会で、「わたしのせいじゃない」という絵本を朗読しました。この話は、17人の登場人物たちが、それぞれの立場で様々な言い訳をするお話です。いじめの積極的な加害者でなくても無関心であったり消極的であったりすることがいじめを助長していることを考えるきっかけとしく選書しました。その言い訳、なんだか聞いたことがあるような…。

上瀬谷小学校では、この朝会を皮切りに、各教室で「誰にとっても居心地のよい学校を創るためにわたしがすること、しないこと」について話し合いました。その各クラスの話合いをもとに、6月26日、体育館で4～6年生の代表6名によるパネルディスカッションを行いました。「わたしのせいじゃない」ではなく、皆が「自分ごと」として考えるのです。

クラス代表のパネリストたちは、①誰にとっても居心地の良い学校をつくるためにわたしが大切にする考えやその理由、根拠となる体験②自分が1週間取り組んだこと、取り組んでみて感じた良い変化③1週間取り組んでみて悩んだこと、もっとこうしたらよいと思ったことを話しました。6名のパネリストはもちろん、聴く方も真剣です。聴き手の側からも、自分には足りていないこと、失敗したこと、いやな気持ちがあったこと、1週間、決めた取組をして、よいと感じたこと、次々と素直な言葉が出てきました。「コーチングで学んだ、心のコップにいい水をいっぱい貯めたい。」「仲が良くても相手がいやなことは絶対にしてはだめ。そして、自分の気持ちも大事にする。だから、勇気がいるけれど、いやなことつらいことを相手に伝えてみる。」体育館は、温かく真剣な空気に包まれました。この会場にいた誰もが「いい学校だなあ。この学校をもっといい学校にしたいなあ。」と感じたことと思います。そして、「自分が」「もっといい学校にする!」と。

6月は、新しくできた友達との関係も新たに見えてくる月でした。友達ができるとうれしいこともありますが、意思疎通がうまくいかず、トラブルもあります。それでも、子どもたちは、一つひとつを解決したり乗り越えたりしながら、人間関係も学んでいます。